

指針第1号様式

4 温室効果ガスの排出の状況

基準年度（令和6年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		8,151	t-CO <sub>2</sub>
①を （温室除く 二酸化炭素 換算） 排出量	②非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO <sub>2</sub>
	③メタン		t-CO <sub>2</sub>
	④一酸化二窒素		t-CO <sub>2</sub>
	⑤ハイドロフルオロカーボン類		t-CO <sub>2</sub>
	⑥パーフルオロカーボン類		t-CO <sub>2</sub>
	⑦六ふっ化硫黄		t-CO <sub>2</sub>
	⑧三ふっ化窒素		t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量（①～⑧合計）		8,151	t-CO <sub>2</sub>

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標

(1) 温室効果ガス排出量の抑制目標

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量及び原単位排出量
------------------	--------------

項目	基準年度 令和6年度 排出量（実績）		目標年度 令和9年度			
			目標排出量		目標削減率	
温室効果ガス 総排出量	8,151	t-CO <sub>2</sub>	7,906	t-CO <sub>2</sub>	3.0	%

項目	基準年度 令和6年度 排出量（実績）		目標年度 令和9年度			
			目標排出量		目標削減率	
原単位当りの 排出量	58.87	kg-CO <sub>2</sub> / m <sup>2</sup>	57.1	kg-CO <sub>2</sub> / m <sup>2</sup>	3.0	%

(2) 目標設定の考え方

温室効果ガスを1年間に1%ずつ、3年間で3%削減する。
-----------------------------

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考3 原単位当りの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量当たりの温室効果ガス排出量をいいます。

指針第1号様式

6 温室効果ガスの排出の抑制等に係る措置

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標
一般管理／エネルギー使用量の把握及び管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・副学長を委員長とした環境対策委員会の開催</li> <li>・エネルギー使用量の把握・計測・記録・分析</li> <li>・エネルギー削減目標の設定</li> <li>・環境報告書の発行及び公表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・温室効果ガスを1年間に1%削減</li> </ul>
省エネルギー・省資源の推進／空調	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設備の運転時間、温度を管理（冷房28℃、暖房20℃）</li> <li>・中間期等は積極的な外気の導入により、空調機または熱源機の運転時間を削減</li> <li>・空調機を順次高効率型に更新</li> </ul>	
省エネルギー・省資源の推進／冷暖房	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クールビズの推奨</li> <li>・ブラインドの活用等により日射負荷を削減</li> </ul>	
省エネルギー・省資源の推進／照明	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昼休みや残業時には不必要な照明を消し、廊下等の共用部分においては人感センサーを採用</li> <li>・蛍光灯、水銀灯を順次LEDに更新</li> </ul>	
省エネルギー・省資源の推進／OA機器	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パソコン、コピー機の省エネ設定の推進</li> <li>・電気機器の待機電力削減の推進</li> </ul>	
省エネルギー・省資源の推進／その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自動販売機の不要な照明を消灯</li> </ul>	

指針第1号様式

(2) 非化石エネルギーへの転換に関する措置

ア 非化石電気に関する目標

指標	目標 (2030年度)
使用電気全体に占める 非化石電気の比率	%

イ 計画期間における非化石エネルギーの利用

--

(3) 環境価値 (クレジット等) の活用

--

(4) その他の地球温暖化対策に係る措置

<ul style="list-style-type: none"><li>・ 擬音装置及び節水型トイレの採用</li><li>・ 什器類の学内リユースの推進</li><li>・ グリーン購入法に準じた物品購入の推進</li><li>・ ガイダンスにおける学生への環境方針と現状の説明</li></ul>
--

(5) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組

<ul style="list-style-type: none"><li>・ 夏季期間中に省エネルギーキャンペーンを実施 (クールビズへの呼び掛け)</li><li>・ 学内全体において、毎週1日以上「ノー残業デー」を定めており、定時退社に努める</li></ul>
--